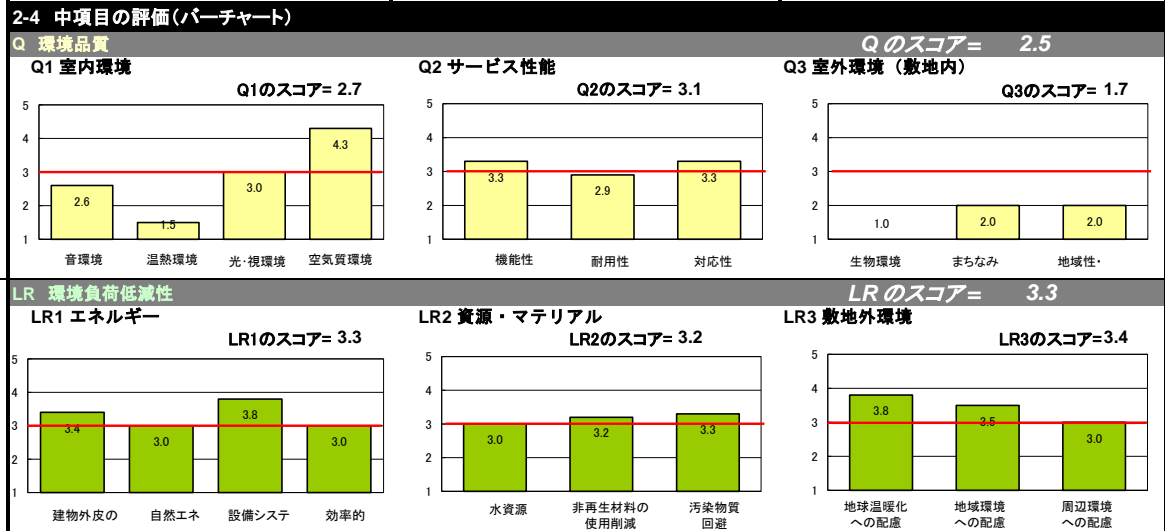
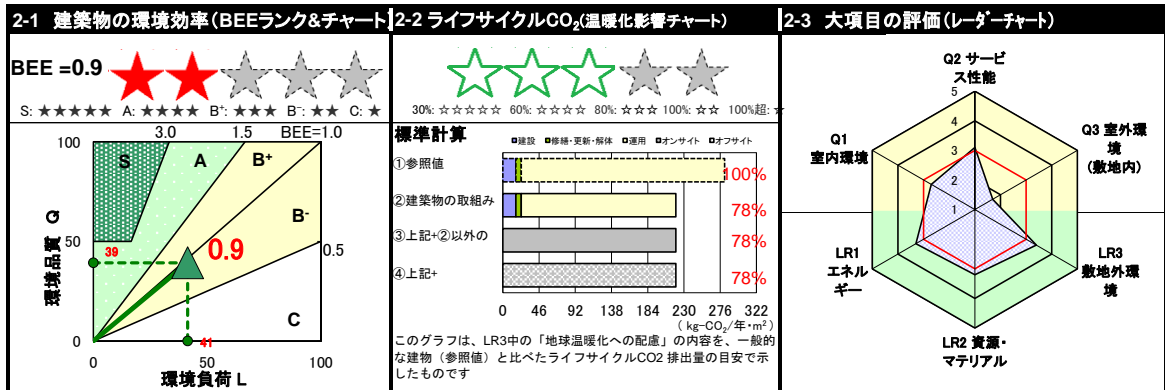


# CASBEE<sup>®</sup> あいち

## 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)豊橋富士見台NSCマックスバリュ棟	階数	地上1階
建設地	愛知県豊橋市富士見台一丁目1番1の一部	構造	S造
用途地域	第一種住居地域	平均居住人員	3,080 人
気候区分	7地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2024年10月 予定	評価の実施日	2024年2月22日
敷地面積	9,730 m <sup>2</sup>	作成者	小山 茂昭
建築面積	2,709 m <sup>2</sup>	確認日	2024年2月22日
延床面積	2,739 m <sup>2</sup>	確認者	小山 茂昭



3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.8</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	0.0 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	0.0 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.1</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt; なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材・外構に使用した地域性のある素材&gt; なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮  
②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用削減  
③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています  
あいち CASBEE

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
 (仮称)豊橋富士見台NSCマックスバリュ棟

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄			建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>											
<b>Q1 室内環境</b>											
<b>1 音環境</b>											
1.1 室内騒音レベル		0.1	2.6	0.15	-	-	-	-	-	2.6	
1.2 遮音		3.0	3.0	0.40	-	-	-	-	-	-	
1 開口部遮音性能		0.4	3.0	0.40	-	-	-	-	-	-	
2 界壁遮音性能		-	3.0	1.00	-	-	-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	-	3.0	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1.3 吸音		-	1.0	0.20	-	-	-	-	-	-	
<b>2 温熱環境</b>											
2.1 室温制御		0.3	1.5	0.35	-	-	-	-	-	1.5	
1 室温		0.5	2.0	0.50	-	-	-	-	-	-	
2 外皮性能		3.0	1.0	0.50	-	-	-	-	-	-	
3 ゾーン別制御性		3.0	3.0	0.17	-	-	-	-	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	3.0	0.33	-	-	-	-	-	-	
2.3 空調方式		3.0	1.0	0.20	-	-	-	-	-	-	
2.3 空調方式		3.0	1.0	0.30	-	-	-	-	-	-	
<b>3 光・視環境</b>											
3.1 屋光利用		0.2	3.0	0.25	-	-	-	-	-	3.0	
1 屋光率		0.5	3.0	0.50	-	-	-	-	-	-	
2 方位別開口		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 屋光利用設備		3.0	3.0	1.00	-	-	-	-	-	-	
3.2 グレア対策		-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 屋光制御		5.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
3.3 照度		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
3.4 照明制御		3.0	3.0	0.50	-	-	-	-	-	-	
<b>4 空気質環境</b>											
4.1 発生源対策		0.2	4.3	0.25	-	-	-	-	-	4.3	
1 化学汚染物質		0.5	5.0	0.50	F☆☆☆☆及びVOCの放散量が少ない建材を全面的に採用。	3.0	5.0	1.00	-	-	
4.2 換気		0.3	3.5	0.30	-	-	-	-	-	-	
1 換気量		3.0	3.0	0.50	-	-	-	-	-	-	
2 自然換気性能		3.0	-	-	給気口が各種排気口と6m以上離れて設置されている。	3.0	4.0	0.50	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	4.0	0.50	-	-	-	-	-	-	
4.3 運用管理		0.2	4.0	0.20	-	-	-	-	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視		3.0	3.0	0.50	-	-	-	-	-	-	
2 喫煙の制御		3.0	5.0	0.50	全館禁煙としている。	3.0	5.0	0.50	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>											
<b>1 機能性</b>											
1.1 機能性・使いやすさ		0.4	3.3	0.40	-	-	-	-	-	3.3	
1 広さ・収納性		0.4	3.0	0.40	-	-	-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 バリアフリー計画	独自	3.0	3.0	1.00	-	-	-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性		0.3	4.0	0.30	-	-	-	-	-	-	
1 広さ感・景観 (天井高)		3.0	5.0	0.33	天井高3.8mを確保している。	3.0	5.0	0.33	-	-	
2 リフレッシュスペース		3.0	4.0	0.33	リフレッシュスペースを設置している。	3.0	4.0	0.33	-	-	
3 内装計画		3.0	3.0	0.33	-	-	-	-	-	-	
1.3 維持管理		0.3	3.0	0.30	-	-	-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	3.0	0.50	-	-	-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	3.0	0.50	-	-	-	-	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>											
2.1 耐震・免震・制震・制振		0.3	2.9	0.31	-	-	-	-	-	2.9	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		0.4	3.0	0.48	-	-	-	-	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	3.0	0.80	-	-	-	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		0.3	3.1	0.33	-	-	-	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②	-	2.0	0.23	耐久性の高い内装材を採用している。	-	5.0	0.09	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-	5.0	0.09	-	-	-	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-	3.0	0.08	-	-	-	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		-	4.0	0.15	主要な用途上位3種の、2種以上にC以上を使用。	-	4.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	-	
2.4 信頼性		0.1	2.6	0.19	-	-	-	-	-	-	
1 空調・換気設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-	
2 給排水・衛生設備		3.0	2.0	0.20	-	-	-	-	-	-	
3 電気設備	②	3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-	
5 通信・情報設備		3.0	2.0	0.20	-	-	-	-	-	-	

<b>3 対応性・更新性</b>					0.2	3.3	0.29	-	-	-	3.3
3.1 空間のゆとり					0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり				階高を確保し、更新性に配慮した計画としている。	-	5.0	0.60		3.0	-	
2 空間の形状・自由さ				空間の自由さを確保し、用途変更等にも対応できる。	3.0	5.0	0.40		3.0	-	
3.2 荷重のゆとり					3.0	2.0	0.31				
3.3 設備の更新性					0.3	3.0	0.38				
1 空調配管の更新性			②		-	3.0	0.17				
2 給排水管の更新性					3.0	3.0	0.17				
3 電気配線の更新性					3.0	3.0	0.11				
4 通信配線の更新性					3.0	3.0	0.11				
5 設備機器の更新性					3.0	3.0	0.22				
6 バックアップスペースの確保					3.0	3.0	0.22				
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>						-	0.30		-	-	1.7
1 生物環境の保全と創出			独自③		-	1.0	0.30		-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④		-	2.0	0.40		-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮					0.3	2.0	0.30		-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④		-	2.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					-	2.0	0.50		-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>						-			-	-	3.3
<b>LR1 エネルギー</b>						-	0.40		-	-	3.3
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI=0.94	3.0	3.4	0.30		-	-	3.4
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.20		-	-	3.0
3 設備システムの高効率化				BEI=0.76	3.0	3.8	0.30		-	-	3.8
4 効率的運用					0.2	3.0	0.20		-	-	3.0
集合住宅以外の評価					1.0	3.0	1.00		-	-	
4.1 モニタリング					3.0	3.0	0.50		-	-	
4.2 運用管理体制					3.0	3.0	0.50		-	-	
集合住宅の評価					-	-	-		-	-	
4.1 モニタリング					-	-	-		-	-	
4.2 運用管理体制					-	-	-		-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>						-	0.30		-	-	3.2
1 水資源保護					0.1	3.0	0.15		-	-	3.0
1.1 節水					3.0	3.0	0.40		-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	3.0	0.60		-	-	
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.67		-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.33		-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	3.2	0.63		-	-	3.2
2.1 材料使用量の削減					-	3.0	0.07		-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					-	3.0	0.24		-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			②	-	-	3.0	0.20		-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自	ネオマフォーム(断熱材)	3.0	3.0	0.20		-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	3.0	0.05		-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自	LGS工法、OAフロアを採用し、再利用可能性の向上に努めた。	3.0	4.0	0.24		-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.3	0.22		-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	3.0	0.32		-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	3.5	0.68		-	-	
1 消火剤					-	-	-		-	-	
2 発泡剤(断熱材等)					-	4.0	0.50		-	-	
3 冷媒					3.0	3.0	0.50		-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>						-	0.30		-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率78%	-	3.8	0.33		-	-	3.8
2 地域環境への配慮					0.3	3.5	0.33		-	-	3.5
2.1 大気汚染防止				燃焼機器の採用はない。	-	5.0	0.25		-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善					-	3.0	0.50		-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	3.0	0.25		-	-	
1 雨水排水負荷低減			独自		-	3.0	0.25		-	-	
2 汚水処理負荷抑制					-	3.0	0.25		-	-	
3 交通負荷抑制			独自		-	3.0	0.25		-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制					-	3.0	0.25		-	-	
3 周辺環境への配慮					0.3	3.0	0.33		-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40		-	-	
1 騒音			独自		-	3.0	1.00		-	-	
2 振動			独自		-	-	-		-	-	
3 悪臭					-	-	-		-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					0.4	3.0	0.40		-	-	
1 風害の抑制					-	3.0	0.70		-	-	
2 砂塵の抑制					-	-	-		-	-	
3 日照障害の抑制					-	3.0	0.30		-	-	
3.3 光害の抑制					0.2	3.0	0.20		-	-	
1 屋外照明及び室内照明のうち外に漏れる光への対策					-	3.0	0.70		-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					-	3.0	0.30		-	-	

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)豊橋市立見台NSCマックスバリュ様

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.8</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.8	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.1</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.2	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:0%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>				<b>1.0</b>
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用  $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア=

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)豊橋富士見台NSCマックスバリュ棟

計画上の配慮事項	
総合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊橋市に新築される物販店である。</li> <li>・高効率な設備機器の採用等により、CO2削減にも積極的に取り組む計画となっている。</li> </ul>
Q1 室内環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全館禁煙として室内の良好な空気質環境の確保を図っている。</li> </ul>
Q2 サービス性能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の用途変更の可能性等を考慮し、建物の階高、空間の形状・自由さにゆとりを持った計画としている。</li> </ul>
Q3 室外環境(敷地内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防犯性に配慮し、メッシュフェンスを採用している。</li> </ul>
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高効率な設備機器を採用し、エネルギーの効率的利用に配慮している。</li> </ul>
LR2 資源・マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・LGS工法、OAフロアを採用し、再利用可能性の向上に努めた。</li> </ul>
LR3 敷地外環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・燃焼機器の設置をなくし、大気汚染防止に配慮している。</li> </ul>
その他	